

農産物収穫本番!

ミニトマト約950ト、出荷を計画

～ミニトマト収穫始まる～

当JA管内でミニトマトの収穫が盛んになってきた。管内の平成30年の作付面積は昨年より1.0%多い15.0%、生産者は新規作付け者16人を含む137人。出荷は11月までに約950トを計画する。

ミニトマトを1200坪で栽培する平賀基幹支店管内の古川将路さんは6月26日、色づいたミニトマトを収穫し、JAへ出荷した。「天候に不安があったものの順調に生育したのでほっとした。収穫や誘因作業、トマトトーンの吹き付けなど作業が重なり忙しいが、良いものを採るため防除と水管理をしっかりしていきたい」と話した。



ミニトマトを収穫する古川さん

増収へ栽培管理を確認

～ミニトマト栽培講習会～

JA園芸生産出荷協議会ミニトマト部会は6月20日、小山内務部会長のハウスでミニトマト栽培講習会を開き、部会員約100人が参加した。

トキタ種苗の中野将規さんを講師に迎え、病害や生理障害への対策と増収を目指した追肥管理など今後の栽培管理を説明した。「梅雨寒の影響を受けやすくなるので、病害だけでなく生理障害への対策が必要。追肥のタイミングを確認し、しっかりと花芽をつけ、増収を目指した管理をしてほしい」と話した。小山内務会長は「JA産ミニトマトは市場から好評価を得ている。市場の期待を裏切らないよう目ぞろえ会や講習会を開き、部会一同頑張っていきたい」と話した。



増収をめざした管理を確認した講習会

トマト販売額1億7000万以上を目指す

～平成30年産トマト出荷説明会～

尾上青果センターは6月20日、平成30年産トマト出荷説明会を開いた。尾上、平賀両地区の生産者、市場関係者ら約50人が参加。品質を統一するため出荷基準の確認をした。販売額1億7000万以上を目指し、頑張ろう三唱で本格出荷を前に士気を高めた。

尾上トマト部会の山口知治部会長はあいさつで、「続いていた低温も終わり、これから生育が進むと思います。高品質なトマトを消費者の方へ届けられるよう栽培管理を徹底してください」と呼びかけた。

尾上青果センター齋藤寿徳統括は出荷時の注意事項、トマト着色基準、出荷等級などについて説明。「当JAのトマトの栽培技術は、市場からも評価されています。出荷基準を守り、高品質トマトの生産に努めてください」と呼びかけた。



頑張ろう三唱で士気を高める部会員